

施策名：5-1-1 する・みる・ささえる・はじめる生涯スポーツの推進

担当部：地域振興部

検証項目	検証結果					
	検証委員挙手数			市民評価者		
	そう思う	どちらとも いえない	そう思わない	そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
I 施策の実現に向けた取組について						
課題がしっかりと捉えられているか	2	0	2	4	2	0
取組の方向性は合っているか	1	2	1	1	4	1
取組成果が、施策実現や成果指標の達成に効果があるか	0	2	2	2	3	1
II 施策の有効性について	有効である		有効ではない	有効である		有効ではない
政策目標の達成に向けた施策の有効性	2		2	3		3

1 検証委員からの主な指摘事項

- スポーツ関与率の捉え方は良いが、実施参加数とのギャップをどのように埋めていく手法、手段（アンケート）の適正かどうかの検証必要。インフルエンサーに何を期待し何を成果につなげたいのかを明確化必要
- スポーツ推進の中核であるスポーツ協会に、委託事業を過度に依存することないように、依存体質から抜け出す必要有り
- 従来事業の延長の取組み姿勢では、事業を消化していくことに力点があり、アクティブシティ推進との庁内の連動するアクション施策立案必要
- スポーツ関与率を補足するためのアンケートが定期的に行う仕組みができていない
- 選択と集中の計画（施設）が必要（個別対応はしているが一市全体の計画が必要）

<担当部 対応方針>

- スポーツ活動を広めていくインフルエンサーとして、第一にはスポーツ推進委員を想定している。そのほか、「チャレンジデー」等市民参加型イベントで、これまでに市民が触れる機会がなく、また一人でも手軽に実施できるスポーツ活動の機会を提供しており、インフルエンサーとしての期待を持っている。（ヨーガ、バランスボール等）
- アンケートの実施などにより、日常的なスポーツ活動の実施率（関与率）に繋げていくことが必要である。
- アクティブシティとの連携においては、スポーツ推進委員会が主管して実施する「歩け歩け大会（春・秋）」や「スポーツレクリエーション大会」など市民参加型のイベントを充実させるとともに、新たに採用する「健康アプリ」のほか「ふくちライフ体操」やオンラインによる体操動画などを紹介し、個人でも手軽にできるスポーツ活動の取組を進めていく。
- スポーツ協会への委託事業は、補助金の代替として委託料となることとしないよう、その事業内容も十分に精査し、スポーツ協会の持つ組織力やネットワークを有効に活用できる事業を、スポーツ協会が中心になって担うこととできる仕組みを検討する。
- 令和5年度に「福知山市スポーツ推進計画」の中間改訂を行う予定であることから、令和4年度において、市民アンケートを実施することとしている。今後、Web等も活用した簡易なアンケートも含めて、「スポーツ関与率」の定期的な補足について検討していく。

2 施策改善案など（検証委員、市民評価者が記載したコメントのとりまとめ）

（1）検証委員

- ・従来の推進化方法では、実質的には参加者数は増加すると期待するが、ハードに頼ることなく市民の支える・みる側のライフスタイルの中でスポーツに親しむスタイル、時間を紹介していくような広報が重要になっていくと思われる。市の担当、スポーツ協会所属会員の方がまず、インフルエンサーとしての活動を始めて下さい。ハード整備の考え方の中で、四都市との共通ハードや集約できるものなどエリアを広げて面で捉えていく視点も必要。
- ・スポーツを推進するのに必ず施設は必要であるが、今後10年20年後の高齢化を考えるとスポーツの内容も変化していく。その中で、施設改修費等、大きな財源が必要になるが、どんなスポーツを進めるかによって施設の必要性も変わっていくので、実態に合った施設をお願いしたい。

<担当部 対応方針>

- 「スポーツ推進計画」では、「三段池公園」「長田野公園」「市民運動場」の3地点を本市の主要スポーツ拠点と位置付けている。このうち、「長田野公園」並びに「市民運動場」の施設はいずれも老朽化による経年劣化が進んでおり、計画的な施設整備が必要である。
- 担当課においては、京都府北部でも有数の機能を持つ「三段池公園」の各施設の機能の維持・保全を継続して行うとともに、競技特性に応じた施設整備を実施し、スポーツによる交流の場として、市域を超えて利用していく。（近畿・全国大会の誘致、スポーツ合宿等）
- その他の2施設については、計画的に統廃合を実施する。
特に長田野公園体育館は、その特殊な構造から雨漏り等の根本的な解決ができないため、市民体育館との機能統合を進める。ただし、計画期間が長期化することが見込まれることから、その間、市民体育館の機能の維持・保全は実施する。
【参考】市民体育館改修工事 令和3年度：便所改修
令和4年度：体育館LED化改修
SECカーボンスタジアム（市民運動場野球場）
令和5年度：防球ネット補修
温水プール 令和3～4年度：民間事業者による移転新築
令和6年度：既存プール解体撤去
市民運動場弓道場 長田野公園体育館、市民体育館の機能統合に合わせ、複合施設として、体育館内に併設することを検討
- 地域公民館併設体育館をはじめとした小規模体育館等については、地域スポーツ施設として存続は必要であるが、同様に地域にある小・中学校体育施設も含めた利用状況等を十分に調査し、今後の高齢化や少子化などの人口減少も見込んだうえで、それぞれの地域特性に応じた在り方を統廃合や廃止も含めて検討する。

（2）市民評価者

- ・小学生の体力低下という課題があったが、そこについての働きかけは課題にならないのか疑問。今後を見た時に低年齢から運動が習慣化されていたら自然と年をとっても運動する機会を求めるのでは。
- ・スポーツ活動の中心から外れて周辺にいる人をどのように取り込んでいくのか、具体的な内容が示されていない。

- ・取組内容では現状スポーツ活動に関心のある人しか参加が難しいと感じる。関与する市民を増やせる取組がもっとあると嬉しい。
- ・スポーツを実際に行うだけでなく、そのスタッフや関わろうとする人についても把握出来ないのか。高齢になってもスタッフとして関わろうとする人、それを生きがいにするような方も出てくるのではないかと。生涯にわたっての生きがいというのは、現時点で考えれば、今している人、高齢になった人に焦点があたるが、低年齢からスポーツに触れ合う機会を作ることも大事ではないか。例えば福知山マラソンのボランティアスタッフや何かを渡す係として小学生や保・幼の子にも声をかけてみる等。色々な大会を行って行くのであれば、スタッフを市民から募集してはどうか。バイトとしてスポーツに関わり、そこから興味を持ってもらうなどの方向もあるのではないかと。
- ・現状は施設が三段池・和久市に集約されている。その地域から離れた市民のスポーツの機会を奪う”廃止”にはならないようにしてほしい。スポーツ推進計画について、周知がされていないのでは？簡易版の作成、広報ふくちやまで”かみくだいた内容”の伝え方、周知が必要ではないか？

<担当部 対応方針>

- 日頃スポーツ活動を行っていない人のスポーツを始めるきっかけとして、令和元年度より「チャレンジデー」に取り組んでいる。「チャレンジデー」を引き続き実施するとともに、令和5年度以降は、本市独自の「チャレンジデー」（例：毎月最終水曜日を指定し、市民が運動する機会とする）を計画することも検討し、市民の運動機会を創出する。
- 2025年度の運動部活動の地域移行も見据えて、総合型地域スポーツクラブを育成するなど、幼少期から高齢者までの運動機会創出を図る。
令和5年度：運動部活動の地域移行を見据え、民間事業者と連携した休日のスポーツ活動の機会の提供（初年度…バスケットボール・バレーボール・野球・サッカー）
- 競技スポーツについては、スポーツ協会加盟の各競技協会とも連携して競技力の向上を進めるとともに、各競技の普及についても連携して実施する。
令和5年度：スポーツ教室の充実
- ボランティア活動は、福知山マラソンをはじめ、過去のオリンピック聖火リレー、ワールドマスターズゲームズ2021 関西などでも、小学生からの応募も受け付けていたが、コロナ禍により、大会が中止や延期となるなど具体的な成果は達成できていない。
- 本市においては、包括連携協定を締結している「笹川スポーツ財団」からのアドバイスもいただき、まずは令和4年度の福知山マラソンにおいてボランティアリーダーを養成し、市民が「ささえろ」スポーツ活動にも取り組んでいくこととしている。
令和3年度：オリンピック聖火リレーボランティア要請講座実施
令和4年度：福知山マラソンボランティアリーダー養成講座（予定）
令和5年度：福知山マラソンボランティアリーダー養成講座